

# 令和4年度 研究推進活動計画

## 1 学校教育目標

人間の尊厳と基本的人権の尊重を基盤として、将来の社会的な「自立」を目指し、「ふるさとを愛し、深く考え、心豊かにたくましく生きる児童の育成」を図る。

### めざす児童像

「は」 はきはき話し、あいさつする子

「た」 たのしく遊び、勉強する子

「の」 のびのび元気に、がんばる子

## 2 研究主題

対話のある学びを通して考えを広げ深める授業を目指して

## 3 研究仮説

- ・課題設定や学びの形態を工夫することによって対話を生み出し、考えを広げ深めることができるのではないか。
- ・話す・聞く力を向上させることによって考えを広げ深めることができるのではない

## 4 研究主題・研究仮説について

平成28年度からは、「ことばの力」で、自分を創るという研究主題で研究を進めてきた。知識を覚える記憶型の学習ではなく、ことばを使った「対話のある学び」や「豊かな体験やふれあい」を重視した学習をおこなってきた。そして小規模校であることのメリットを生かし、児童同士や児童と教師、地域の方たちとの関わりを通して対話を広げ、学びを深めてきた。

令和元年度からはその成果の上に立って、算数科を中心に対話のある学びを通して考えを広げ深める授業を目指して授業改善を行い、問題解決的な指導過程を明確にして授業改善を進めてきた。

学力診断テストでは算数科はどの学年も平均並みまたは平均以上と少し基礎学力が向上した。しかし、課題に意欲的に取り組もうとしても、活用する課題に出会うとすぐにあきらめてしまったり、相手を意識した双方向の対話にならなかつたりする。考え方を交流する場面では、ただ発表するだけで終わってしまうという実態が浮き彫りになる。

そこで令和2年度からの2年間では、特に課題設定の工夫について、教師の課題への向かわせ方・教具の工夫について事前研修に力を入れた。また、話す・聞く力の向上をめざして、「わくわくお話タイム」のテーマ設定や、交流の進め方、思考ツールを使った意見交流についてブロックでの話し合いを密にした。そのうえで「わくわくお話タイム」をきっかけに対話のある学びを通して考えを広げ深める授業展開について研修をした。

同時に「指導と評価の一体化」については常に全教職員で念頭におき、教師のコーディネート力についてのスキルアップを目指した。

研究の集大成となる今年度は、研究主題はそのままに、基礎学力の定着をふまえた上で、「主体的な学びを引き出す課題設定」「対話を生み出す少人数を生かした教材・教具の取り入れ方」「考えを広げ深める教師のコーディネート力」の研究を深め、児童の思考力・表現力を高める。

また、それぞれの教科の特性を生かした論理的な思考を高めるための言語活動のスキルアップや、思考過程が分かるノート指導、ICT機器の活用、振り返りの有用性・次時への発展等、基礎学力定着のための素地づくりについても系統性をもって研究していく。

## 5 研究の重点

### (1) 主体的な学びにするための工夫

- 思考のもととなる基礎学力の充実を図る。
- 課題（生活に生かせる、身近である、自分自身で選べる、切実性がある、解決できる見通しがもてる）設定の工夫をする。
- 授業形態（一人学び、全体学びの組み合わせ方、グループ編成の層の組み合わせ方）の工夫をする。
- 教師の課題への向かわせ方（教具・教材の工夫、手立て、実態に応じたアプローチの工夫、充足感を持たせる工夫、まとめの視覚化の工夫）のコーディネートを図る。

### (2) 対話のある学びにするための工夫

- 安心できる学級・学校(何でも話せる、何でも聞いてもらえる集団づくり)をつくる。
- 教師自らが「待つ姿勢」「話を聞く姿勢」を意識する。
- 話し方「あいうえお」、聞き方「あいうえお」の徹底をする。
- 話す・聞く力（話す・聞くスキルアップ練習、わくわくお話タイム、下校時のスピーチ、全校の取組時の感想発表、ブロックの授業での口頭振り返り）を高める。
- 対話をしたくなる仕掛けづくり（子ども同士での意見に対する切り返し、発達段階に応じた話型・話し合い方、教師の言葉がけ、子どもの思考が途切れない授業展開）をする。
- ねらいを明確にした話し合いを設定する(活動に意味をもたせる)。
- 自分自身と結びつけられる発言、振り返りをさせ、友達との意見のつながりをもたせる。
- 自分の考え、グループでの話し合いの時間の確保をする。

### (3) 考えを広げ深める授業にするための工夫

- 教師がしゃべりすぎない・手をかけ過ぎないように意識する。
- 子どもの言葉を引き出す明確な発問の工夫をする。
- コーディネート力の向上（子どもの思考の流れをスムーズにする、論点のずれの修正、ゴールを指した軌道修正、子どもを納得させる）を図る。
- それぞれの教科の言語活動を通して論理的な説明ができるようにする。
- 自分の考えを友達や他の情報からさらに自分の考えを深める時間の確保をする。
- ノート指導(学習したことがわかるノート、思考過程がわかるノート)をする。
- 授業のシュミレーションをし、授業展開の矛盾点の洗い出しをする。

## 6 授業構想

### つかむ

問題との出会い(課題設定の工夫)

- 「おや、ふしぎだ」「どうなっているんだろう」 ← 知的な好奇心
- 「解決したいな」 ← 意欲・切実性
- 「今まで学習した方法でできそうだ」 ← 見通しを持つ

活動で終わらないめあての設定

主体的

自己との対話  
問題との対話

### 深める

①自分の考えの表現・解決の方向性

- 自分で解いてみる(絵、図、具体物、式、表、グラフなど)

②考えを交流する【ペア、グループ】

- 自分の思考を表現する

③考えを交流する【全体】

- ねらいを明確にした話し合いにする
- 共に考えを作り上げる
- 論理的思考(まず、同じところは、～から分かることは など)

④考えを深める

- 自分の考えを友達や他の情報からさらに深める(自分の考えの再構築)
- 考えをまとめる

主体的

自己との対話

対話的

教師との対話  
友達との対話

自己との対話

### まとめる

振り返る

- 適用問題をする
- 振り返りを書く(自分の変容に気付かせる振り返り)
- 考えをまとめる(めあてにそって)

深い学び